

会 議 録

会議名	令和5年度 第3回丸亀市自治推進委員会
開催日時	令和5年11月21日(火) 18:30~19:30
開催場所	丸亀市役所 特別会議室
出席者	<p>出席委員 池永文彦、垣渕直子、関泰子、秋山ともえ、門裕介、高尾光一、高木明美、前田誠、岩根綾香、新野智雪、豊岡士</p> <p>欠席委員 鹿子嶋仁、岩崎正朔、和泉敏之</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室秘書政策課) 課長 真鍋裕章、政策マネジメント室長 宇野大志郎、主任 安藤悠子</p> <p>市出席者 市民生活部長 田中壽紀 (市民生活部生涯学習課) 課長 谷本智子、副課長 後藤幸功、市民協働担当長 直江麻紀、主事 高嶋のどか</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第2次丸亀市協働推進計画(案)について 2. その他
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>定刻がまいりましたので、ただ今から、令和5年度第3回丸亀市自治推進委員会を開会いたします。本日は大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。それでは、議事に入ります前に資料の確認をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">＜資料の確認＞</p> <p>本日の会議につきましては、前回と同じく議事録作成支援システムを使用し、会議を記録いたしますので、発言される際にはお手数ですがお手元のハンドマイクを使用して発言していただくようお願いします。ここからは、丸亀市附属機関設置条例第6条及び第7条に基づきまして、高木副会長に議事進行をお願いいたします。</p>
高木副会長	<p>本日の会議ですが、現在、委員総数14名のうち10名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例に基づき、会議が有効に成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは早速議事に入ります。「第2次丸亀市協働推進計画(案)について」、事務局より説明をお願いいたします。</p>

直江担当長	＜資料に基づき説明＞
高木副会長	ご説明ありがとうございました。ご意見、ご質問などがありましたらお願いします。
前田委員	前回の案に比べて分かりやすくなったと思います。この計画を推進していく中で、実際に活動していくのは各市民団体という認識でよろしいでしょうか。また取組の詳細をどのように決めていくのか教えてください。
谷本課長	本計画は市が実施する内容を記載しており、市から市民や市民活動団体、事業者働きかける取組が主となっています。その働きかけに関する具体的な取組を提示したうえで、1年後に結果を評価し進行管理してまいります。
前田委員	この計画の期間である5年以内に社会に出るであろう若い世代の学生が、この計画を見てどう思うかを聞いてみたいと思いますがいかがですか。
高木副会長	本日出席されている学生の皆さんで、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。
岩根委員	若い世代への地域活動・市民活動への参加促進に関し、「マルタスにおいて、若い世代を対象としたイベントを、毎年度2回以上開催する」ことを数値目標に挙げていますが、イベントの開催時期によって参加しやすさが変わってくると思います。学校のある日は参加しづらいです。
新野委員	普段、市民活動などの情報に触れることがありません。コミュニティなどに自主的に参加する人にしか情報が伝わっていないと思います。
豊岡委員	市民活動などにあまり参加したことはありませんが、SNSなどで情報発信することで活動に協力しやすくなると思います。
垣渕委員	先日の丸亀市キッズウィークの際に、市と協力し親子料理教室を開催しましたが、定員20名のところ参加者は11名でした。事前にチラシを小学校で配布したり、市のホームページで広報したりしましたが、豊岡委員がおっしゃったようにSNSで情報を広める工夫をすべきだったと残念に思っています。
直江担当長	情報発信につきましては行政として課題を感じているところで、これからも注力しなければならないと思っております。本計画の27ページには「情報発信・共有」について取組内容を掲載していますが、ホームページの掲載はもとよりSNSでの発信など広報力強化に向けて研修会を実施したいと考えています。

池永委員	数値目標の設定に際し、新型コロナウイルス感染症の影響は考慮されていますか。
谷本課長	特に考慮していません。
池永委員	数値目標は現実的な数値として立てられたものですか。
谷本課長	5年後に達成できるであろう数値に、さらに頑張りたいという思いを込めて少し上乗せした数値を設定しております。
秋山委員	資料 32 ページに「多様な主体による協働の推進」について記載がありますが、これまで具体的にどのような協働事業があったか分かれば、各事業者が今後市と協働事業を進めるうえで参考になると感じました。 またコミュニティや市民活動団体、事業者など、多くの団体で担い手不足の問題が進行しています。今後どのような形で活動していけば人との関わりを増やせるか、何かアイデアをお持ちの方がいらっしゃればお聞きしたいです。
谷本課長	本市では包括連携協定を結んでいる企業がいくつかあります。連携協定先との取組につきましては、本計画には記載していませんが、市のホームページに掲載しております。
秋山委員	例えば、商工会議所の定例会や講習のような場で協働の事例を紹介していただけたら、小さな事業所でも自身が持っているノウハウや技術を生かして、何かできることを発見できるかもしれませんので、積極的に発信していただけたらと思います。
谷本課長	今回の計画では、「事業者に対して、市との協働に関する働きかけを毎年度 1 回以上行う」という目標を設定しております。これは令和 5 年度第 1 回自治推進委員会において秋山委員から、事業者に対し協働についての出前講座をしてはどうかというご提案を受けて設定したものです。協働に関してのアンケート結果や具体的な取組を紹介しながら、働きかけを行いたいと考えています。
高尾委員	各取組の担当課を記載されていますが、多くが生涯学習課となっています。他の部署がどのように関わりを持つかというのは、目標を細分化して設定されるものと思いますが、他部署との連携方法をご説明いただけたらと思います。
谷本課長	丸亀市協働実行計画の分野別事業一覧において、既に実施している協働事業を 100 事業ほど掲載していますが、同じような一覧表を作成する予定です。また、これまでの協働事業をさらに効果的なものにするために、今回の協働推進計画では、生涯学習課が中心となって各課に働きかける取組を目標として設定しており

門委員	<p>ます。進行管理の際には、協働推進計画で設定した数値目標を含め、事業内容や担当課の評価が分かるよう一覧として示したいと考えています。</p> <p>巻き込み型で参画してもらい難しさはありますが、コロナの状況がようやく落ち着いてきたので、いろいろ試してみて、楽しみながらやっていただくのが大事だと思います。先ほどご意見にありましたように、情報発信が効果的にできると興味のある人が集まり、新たな担い手も出てくるのではないかと考えられます。この計画の中だけで終わらないように、情報の発信や周囲の巻き込みを積極的に行っていただきたいです。</p>
高木副会長	<p>資料 34 ページに「対話の場」を設けるとありますが、具体的にどのような形で実施されるのか教えてください。また進行管理の中で、毎年度点検を行うとありますが、市だけでなく事業者や団体においても振り返りの機会があれば良いと思いました。</p>
直江担当長	<p>「対話の場」につきましては、資料 19 ページに掲載しています「丸亀まちづくりラボ」のように、会ごとにテーマを設定し、誰もが気軽に参加できる場を持ちたいと考えています。</p>
前田委員	<p>情報発信に関してですが、私の住んでいる地域の自治会では回覧板があります。ただその回覧板は自治会に入っている人にしか回りませんし、回覧板でしか回らない情報もあります。例えば地域の運動会など、子ども向けのイベント情報があっても、その情報を必要とする人に十分に伝わっていないことがあり、インターネット等を利用して情報発信できる人材が必要だと感じています。行政として何かできる策や他の地域での好事例はありますか。</p>
谷本課長	<p>コミュニティによっては、小学校で長子を対象にコミュニティだよりを配布し、子どもを通して若い世代に情報を届けているところがあります。他のコミュニティに関しては知らないことも多いと思いますので、研修会やまちづくり大賞の表彰などを通して横展開につなげたいと考えています。</p>
高尾委員	<p>コミュニティセンター利用者数を令和 10 年度に 29 万人とする目標を立てられていますが、コミュニティセンターによって利用者数に開きがありますので、各コミュニティセンターの努力だけで何とかするのか、市が支援していくのかが気になりました。この数値目標を設定したバックデータはありますか。またコミュニティ側も 29 万人という目標を理解したうえで、この数値を公表するのでしょうか。同じように、自治会加入率 50%以上を目指すという目標についても、自治会と調整したうえでこの数値にしたのでしょうか。</p>
谷本課長	<p>どちらも生活環境課が掲げている目標ということで掲載いたしました。コミュ</p>

	<p>ニティセンター来館者数、自治会加入率ともに市全体として底上げしていきたいという思いで目標としておりますが、各コミュニティや自治会に確認は取っておりません。</p>
高木副会長	<p>数値目標を設定したのは今回の計画が初めてですか。</p>
谷本課長	<p>協働実行計画には目標を載せていませんので、今回が初めてになります。</p>
岩根委員	<p>マルタスで市民活動を年間 600 回以上開催するという目標があります。1 日に複数回開催する日がないと達成できないと思いますが、具体的にどのような活動がありますか。</p>
直江担当長	<p>令和 4 年度にマルタスで行われた市民活動は 705 回でした。ただ件数が多くなりすぎると十分な伴走支援をすることが難しくなりますので、目標値としては 600 回としています。活動内容は、体操やヨガなど体を動かすものから、環境や福祉などの課題に対して考えるワークショップまで多種多様なものがあります。</p>
高木副会長	<p>数値目標を挙げての計画が今回初めてということですが、計画期間内に評価しながら中身を充実させていくことになると思います。</p>
新野委員	<p>「若い世代が主体的に取り組めるまちづくりに関する講座」を毎年度 1 回以上開催するという目標がありますが、防災マップの作成をするのはどうでしょうか。小学生のときにコミュニティで作成したことが今でも楽しかった記憶として残っていますし、災害時の危険箇所を認識するきっかけにもなると思います。</p>
谷本課長	<p>丸亀市にずっと住んでいる方も引っ越してきた方も、防災は大きな関心事の 1 つですし、お子さんが防災マップを作成して楽しければ家庭でも話題にされると思いますので、テーマとして有効であると改めて感じました。講座を実施する際には、学校に協力いただくなどして、積極的に若い方にお声がけするよう努めます。</p>
高木副会長	<p>他にご意見はありませんでしょうか。 それでは本日の審議はここまでといたします。事務局から連絡事項がありましたらお願いします。</p>
安藤	<p><会議録確認についての事務連絡></p>
高木副会長	<p>それでは本日の会議を終了します。お疲れ様でした。</p>

(会議終了)